

ブック

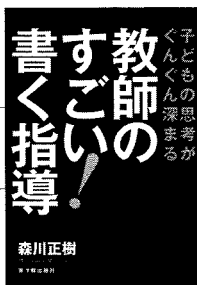
「子どもたちは書けば書くほど『考える』ようになっていく。そんな光景を目の当たりにできるかもしれないのです。私たちは。なんて素敵な仕事でしょうか。」と語っている著者の仕事は小学校教師である。

本書は、「書くこと」の指導を通して、子どもたちの伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養うための具体的な事例が書かれている。

新任教師の時から現在まで「書くこと」を指導の「核」としてきた著者が、子どもたちに「書くこと」魅力的な世界であることを伝えるため、彼が授業で実践してきたことを基にして様々な観点から「書くこと」の指導が提案されている。「Part」書くことが楽しくなる指導」では、連絡帳に毎日自分の振り返りを書かせる、

森川正樹 著
東洋館出版社 1998年
03-3823-9206

子どもの思考がぐんぐん深まる
教師のすごい！ 書く指導



「Part2 書けるクラスにする指導」では、子どもたち自ら思考する「行事作文」や「クラスの共通日記」への取り組み。「Part3 子どもが思考する『書く授業』のつくり方」では、「書くことサンドイッチ」で「読む」授業をつくる（物語文編）など子どもたちの日常生活や普段の授業を活用して、「書くことの能力」を伸ばす指導についてのノウハウが一杯詰まっている。

そして、「Part4 書く力が格段にアップする評価」では、子どもたちが書いている時に教師は、①実態把握の目、②授業進行の目、③授業のおもしろみの目を持って机間巡視・机間指導を行なうこと、さらに、書かれた文について教師が行なうフィードバックとして、子どもたちの作品を教師自らが「読み聞かせる」ことによって、上手な学級経営にも繋がること等も述べられている。

（愛知教育大学教授・高橋美由紀）